



## 佐々先生の 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方を提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、[sasa@keimei.ac.jp](mailto:sasa@keimei.ac.jp) までお願いいたします。

### 啓明学園中学校・高等学校 校長 佐々 信行（さっさ のぶゆき）

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）・ワシントン補習授業校を経て、現職。

## 文化祭・運動会

日本の学校には、学校をあげて取り組む大きな学校行事があります。中高生の帰国生の面接で、「日本の学校生活で楽しみなことは」と言う質問には、「文化祭」という答えが一番多いようですし、外国の学校から留学や体験入学で来ている生徒たちも、日本の学校生活で一番の思い出に、よく「文化祭」や「運動会」をあげます。

### ◆ 文化祭

「祭」は、日常とは別の特別な日です。文化祭でも、学校生活の中に特別な時間が流れ、生徒たちはいつもと違った顔を見せてくれます。

文化祭には各クラスがそれぞれのテーマで展示をします。1学期のうちに計画を立て、夏休みの期間も使って、長い時間とエネルギーをかけて準備をします。クラスのメンバーが、一つの目的を持って困難を解決し、力を合わせる姿は頼もしいものです。その過程では、いろいろな問題に直面します。それを解決する

努力をとおして、生徒たちはたくさんのことを学びます。

音楽や演劇のパフォーマンスもあります。日常活動をしている聖歌隊やバンド、演劇部などは文化祭を一つの目標に熱のこもった練習をつづけます。ここ何年か、音楽を選択している高校3年生がミュージカルを上演するのが恒例になっています。ダンス、バンドなど、文化祭を目指して自発的に結成されるグループもあります。2学期にはいると、放課後の校内は、熱っぽく活動する生徒たちの姿で活気にあふれます。

華やかな展示やパフォーマンスの陰に、表面には見えないたくさんの働きや、悩みや、努力が必要なことを、生徒たちは身をもって体験します。展示一つにしても、計画から制作、ディスプレイ、片付けまでに、どれだけの人たちの力が必要かを考えてみれば、人と人とのつながりがなければ私たちはほとんど何もできないのだということが分かります。

啓明学園の今年の文化祭のテーマは「絆」でした。文化祭という行事を一つの教材としてとらえれば、文化や産業をとおして人と人がつながっていることを、実感をもって考えさせることができます。

例えば、展示に使った木材であれば、それを売ってくれた店の人、店までそれを運んだ人、製材所で木材の形に仕上げた人、森で木を伐採した人、その森の維持のために働いた人、苗木を植えた人、・・・と、つながりはどこまでもつづきます。

音楽やダンスのことを考えるなら、練習の指導をしてくれた人、楽譜を印刷した人、楽器を作ってくれた人、音楽を作曲した人、さらにその作曲家を育てた人、・・・のようにさかのぼっていきることができます。

模擬店の食べ物を出発点にして考えていくと、流通に関わる人たちや、農業に携わる人、牛を飼っている人などにつながります。絆は、国境を越えて、世界中のたくさんの国々に広がっていきます。

今年、中学校のあるクラスは、神奈川県に古くから伝わる相模の大凧に興味を持ち、大凧保存会の人に指導してもらって和



文化祭の大凧